

池田 満之さん

岡山市京山地区ESD推進協議会 会長





池田 満之さん

岡山市京山地区ESD推進協議会 会長

プロフィール

氏名:池田 満之(いけだ みつゆき)

■所属:岡山市京山地区ESD推進協議会 会長

■所属(役職) ※順不同

1990年より(株)環境アセスメントセンター西日本事業部代表取締役。

1994年より岡山ユネスコ協会理事を務める(2018年度より会長)。2002年のヨハネスブルグ・サミット岡山市特別代表等を経て、

「持続可能な開発のための教育」推進会議(ESD-J)副代表理事、岡山ESD推進協議会運営委員長、

岡山市京山地区ESD推進協議会会長、岡山市立京山中学校同窓会会長・地域協働学校運営協議会委員、

岡山県立烏城高等学校評議員、岡山市総合政策審議会環境部会委員、倉敷市環境審議会委員等に就任中。

技術士(総合技術監理部門、建設部門、環境部門)、環境カウンセラー(市民部門、事業者部門)、環境計量士、

作業環境測定士、公害防止管理者、浄化槽管理士、地球温暖化防止コミュニケーター、岡山県地球温暖化防止活動推進員、

岡山県環境学習協働推進広場環境学習指導者、岡山市自然保護活動推進員等の資格や登録を有して活動中。

岡山大学・ノートルダム清心女子大学等の非常勤講師を兼務している。

■専門分野・得意なこと:ESD・環境教育



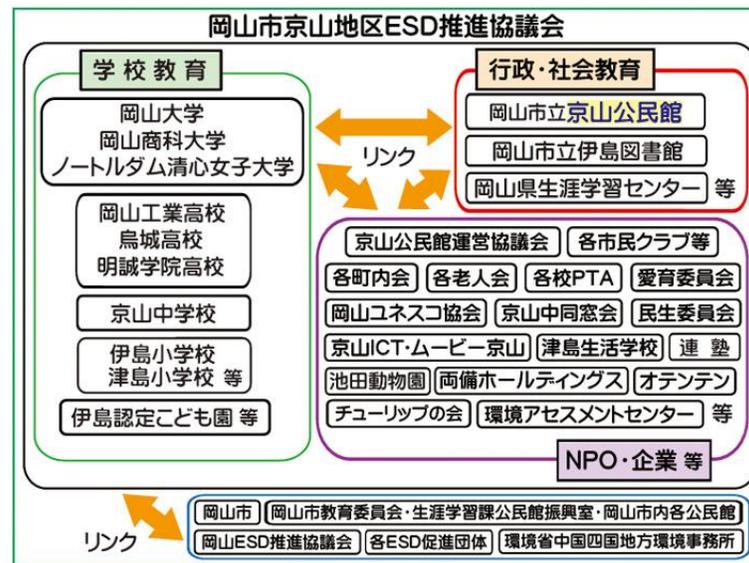
2002年、岡山市特別代表として「ヨハネスブルグサミット」に出席



2006年、小泉総理大臣(当時)を表敬訪問



2015年、第一回ESD岡山アワード「岡山地域賞」を受賞



京山地区の連携関係図



池田 満之さん

岡山市京山地区ESD推進協議会 会長

価値観

1. 足るを知る。(ほどほどにバランスの取れた状態で満足する。) 勝ちすぎず、相手を生かす勝ち方を選ぶ。

「流しそうめん理論」
上流にいる人がそうめんを取りすぎると下流で待つ人はそうめんにありつけない。
上流にいる人は下流にいる人のことを考えて(少し先の未来や全体にとっての利益を考慮して)判断・行動することが望ましいという池田さんが推奨しているESD理論。

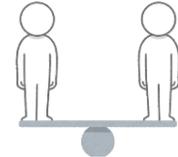
2. しくみをつくる。しくみには「教育」の要素を加える。



池田 満之さん
岡山市京山地区ESD推進協議会 会長

価値観を表すエピソード

1. 足るを知る。(ほどほどにバランスの取れた状態で満足する。)

<p>池田さんが環境アセスメント業務に携わっていた頃...</p>  <p>詳しくは言えませんが表ざたにならなかった社会問題に触れる機会が多々あったそうです。</p>	<p>水面下で問題が処理される状況を何度か見ているうちに...</p>  <p>と考えるようになったそうです。</p>	<p>自身の正義感に基づいて悪事を糾弾したり、相手を排除することも可能ですが、それによって相手を必要以上に追い詰めたり、大きな混乱につながる場合があります。</p> <p>また、新たな対立や隔絶が生まれた場合、それを埋めるためには相応の時間と労力を要するでしょう。</p>	<p>もっと上手な勝ち方・解決方法を選べるようになれば皆にとって理想的な状態をさらに早く実現することができるのではないかと。</p>  <p>そのような思いから利害関係にとらわれず、全体をwin-winの関係に導く「コーディネーター」になることを志したそうです。</p>
---	--	--	--



池田 満之さん
岡山市京山地区ESD推進協議会 会長

価値観を表すエピソード

2. しくみをつくる。しくみには「教育」の要素を加える。

<p>ユネスコの活動で世界基準の大きなしくみづくりに関わってきた半面、足元（ローカル）の重要性を実感しているという池田さん。</p> 	<p>京山地区を拠点にしていることには地域モデルをつくるという意図もあるそうです。</p> <p>他地域にも生かせるしくみを！</p> 	<p>なお、しくみができても誰も知らない、使えないでは意味がないことを痛感した池田さんは・・・</p>  <p>しくみには「教育」の要素が必要！</p>	<p>「E=Education(教育)」</p>  <p>このような経緯もあって池田さんのESDの普及と実践が加速していったのでした。</p>
---	--	--	--



今一番関心があること

「コーディネーターの育成」

誰でもコーディネーターになれるが、岡山市の地域特性を考慮すると公民館職員（社会教育主事、地域担当職員）がコーディネーターとして地域内の資源を発掘したり、つないだりする役割を担うことが望ましい。もっと公民館職員を育て、生かす環境を整えるべき。



池田 満之さん

岡山市京山地区ESD推進協議会 会長

次世代のリーダーへ提供できるもの

「変化に敏感であるための訓練」

普段から自分の生活環境をよく観察して、異常に気づけるようになってほしい。人間は環境の変化に順応できるがゆえに、変化のスピードが緩やかであるほど、取り返しのつかない事態になるまで変化を受け入れてしまう恐れがある。京山地区で10年以上継続している「環境てんけん」には、変化に敏感であるための訓練の意図も含まれている。

「ゆでがえる理論」

かえるを煮立った鍋に入れるとすぐに逃げてしまうが、常温の水に入れて少しずつ温めると、そのまま鍋の中で茹であがる。急激な変化には危機対応できるが、緩やかな変化には順応してしまい、取り返しのつかない危機に陥りやすいという池田さんが推奨している理論。



次世代のリーダーへのメッセージ

1. 場づくり

多様な世代が地域づくりに関わることのできる「場」をつくってほしい。
若い世代は忙しいため参加してもらえないのがあたりまえだが
それでも参加してくれる人がいれば、その人が重要なパートナーになる。

2. 否定しない

常に相手の感情を想像しながら接すること。
否定は対立や隔絶を生み、相互理解を遠ざける。
指導する場合は最初に注意して最後にほめること。
(最後に言われたことが感情に影響しやすいため。)